

# 連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書

プロジェクト の名称	現代的学校教育問題への効果的な対応が可能な教員・臨床心理士の養成研究 —性の多様性に関する国際研究と価値観の変容研究—		
研究期間	平成28年4月～平成31年3月	プロジェクト記 号	T
<b>チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー）</b>			
◎葛西真記子・教授・鳴門教育大学	板東育美・教頭・鳴門市堀江北小学校		
五十嵐透子・教授・上越教育大学	横島道彦・指導主事・徳島県教育委員会		
吉井健治・教授・鳴門教育大学	新見員子・校長・吉野川市知恵島小学校		
中津郁子・教授・鳴門教育大学（平成30年3月）	谷川健二・校長・藍住町藍住中学校		
小倉正義・准教授・鳴門教育大学	枝川京子・講師・神戸芸術工科大学		
戸口太功耶・D3・鳴門教育大学	辻河昌登・The William Alanson White Ins.		
片桐亮・D3・上越教育大学			
<b>プロジェクト全体の研究経過及び研究成果</b>			
<p>1. 研究会の開催</p> <p>①平成28年6月25日 京都文教大学 セクシュアル・マイノリティ研究の課題、研究全体の見直しについて</p> <p>②平成29年2月11日 兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 研究の分担について、中学、高校、大学等での実践について、教職員への研修について</p> <p>③平成30年2月17日 兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 調査研究の結果について、研究結果の執筆分担について、啓発活動について</p> <p>その他、適宜、メールにて会議を開催し、研究の進行状況、情報共有を行った。</p> <p>2. 実践活動・啓発活動</p> <p>① 葛西真記子・五十嵐透子・枝川京子・板東育美・戸口太功耶・片桐亜希 様々な場においてセクシュアル・マイノリティ、性の多様性に関する研修会、講演会。ワークショップを開催し、教職員だけでなく、広い対象に教育啓発活動を行った。</p> <p>② 五十嵐透子 平成28年度から平成31年度 免許状更新講習において「性的多様性の理解と対応」の実施</p> <p>③ 葛西真記子 平成28年度から平成31年度 徳島県内外において学校関係者へのセクシュアル・マイノリティの児童生徒学生への対応についてのコンサルテーションを実施</p> <p>④ 五十嵐透子 平成28年度から平成31年度 上越市内の小・中・高等学校におけるセクシュアル・マイノリティの児童生徒への対応に関するコンサルテーション（教職員対象）</p> <p>⑤ 葛西真記子・五十嵐透子・片桐亜希・枝川京子 平成28年度から平成31年度 カウンセラーとしてセクシュアル・マイノリティの児童生徒への個別対応</p> <p>⑥ 枝川京子 平成28年度 兵庫県教員対象のLGBT理解のための研修会</p> <p>⑦ 枝川京子 平成29年度 神戸芸術工科大学 FSD研修（LGBT理解のための研修会）</p> <p>⑧ 枝川京子 平成29年度 神戸芸術工科大学 ドキュメンタリー映画公開におけるシンポジウムの開催（パネリストとして参加）</p> <p>⑨</p> <p>そのほか、本研究グループで、LGBTQ+の啓発やアライである表明のために、セクシュアル・マイノリティ啓発促進カードを作成し、教育現場、地域等、様々なところへの配布を続けている。また、それぞれの実践を通してえられたデータや知見を「LGBTQ+の児童生徒学生への支援」としてまとめた。</p> <p>3. 研究成果</p> <p>【図書】（計4件）</p> <p>① 葛西真記子・五十嵐透子・片桐亜希・板東育美・枝川京子（葛西真記子編），誠信書房，LGBTQ+の児童生徒学生への支援，2019，全205p</p> <p>② 葛西真記子（水野治久，永井智，本田真大，飯田敏晴，木村真人編），金子書房，援助要請と被援助志向性の心理学（Column5 性的マイノリティへの援助：援助要請の視点から），2017，224（96-97）</p> <p>③ 葛西真記子（藤田哲也監修，水野治久・本田真大・串崎真志編著），ミネルヴァ書房，絶対に役立つ教育相談：学校現場の今に向き合う（トピックス セクシュアル・マイノリティの児童生徒の理解と支援），2017，202，（23-24）</p> <p>④ Kasai, M. (Russell, T. S., &amp; Horn, S. S. Eds.), Oxford University Press, Sexual Orientation, Gender Identity, and Schooling (Sexual and Gender Minorities and Bullying in Japan), 2017, 416 (185-193)</p>			

【雑誌論文】（計6件）

- ① 葛西真記子, マイノリティ共感 (Inter-minority Empathy) - 「性の多様性を認める態度」に関連する要因一, 鳴門教育大学研究紀要, 第34巻, 2019, 136-141
- ② 葛西真記子, 小渡唯奈, 「性の多様性を認める態度」を促進する要因-セクシュアルマジョリティへのインタビュー調査一, 鳴門教育大学研究紀要, 第33巻, 2018, 50-59
- ③ 葛西真記子, セクシュアル・マイノリティへの精神療法における倫理, 精神療法, 第44巻1号, 2018, 77-78
- ④ 片桐 亜希・辻河 昌登, 曖昧で多義的なセクシュアリティを生きる LGBTQ 当事者の語り ~ 「バイ」と「ノンケ」の二択を超えて~ 教育実践学論集, 第19巻, 2018, 37-47.
- ⑤ 葛西真記子, セクシュアル・マイノリティ当事者への支援の在り方, 心と社会 (日本精神衛生会), 査読有, 第48巻2号, 2017, 136-141
- ⑥ 葛西真記子, セクシュアル・マイノリティの子どもを支えるスクールカウンセリング, 精神療法, 第42巻1号, 2016, 19-23

【学会発表】（計11件）

- ① 葛西真記子 大会企画ワークショップ: 精神分析的に考えるセクシュアル・マイノリティの理解と支援, 日本精神分析的心理療法フォーラム(京都文教大学)2016
- ② Kasai, M. Invited Symposium: Current Issues related to LGBT in East Asia: Illustration from Japan, Taiwan, and Hong Kong: State of Affairs in Japan, The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology (Yokohama)2016
- ③ Kasai, M. Symposium: Community Approaches to Cultural Diversity, Crime, and Response to Natural Disaster: Teachers Knowledge of LGBT issues and Student Bullying of LGBT Classmates in Japan: Report of Incidence and Community Based Programs to Address Identified Problems, The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology (Yokohama)2016
- ④ 高山満里奈・葛西真記子 小児期から現在に至る性別違和感の変容と影響要因, 日本心理臨床学会第35回大会 (パシフィコ横浜) 2016
- ⑤ Kasai, M. & Kawakami, A. How gender-related personalities relate to attitude and knowledge about LGBT and gender identity, 30<sup>st</sup> Conference of the European Health Psychology Society (Padova, Italy)2017
- ⑥ 小林美佐子・葛西真記子 性別違和に伴う孤独の緩和と操作不可能性のワークスルー, 日本心理臨床学会第36回大会 (パシフィコ横浜) 2017
- ⑦ 矢口紋多・葛西真記子 性別に違和感の折り合いのつけ方に関する研究, 日本心理臨床学会第36回大会 (パシフィコ横浜) 2017
- ⑧ 小渡唯奈・葛西真記子 「性の多様性を認める態度」を形成するプログラムの実践研究, 日本心理臨床学会第36回大会 (パシフィコ横浜) 2017
- ⑨ 末吉華子・葛西真記子 ゲイ・トランスジェンダー (FTM) の子を持つ親の心理的変容プロセス, 日本心理臨床学会第36回大会 (パシフィコ横浜) 2017
- ⑩ 小野楓・葛西真記子 日常場面における異性愛的言動の具体化についての研究, 日本心理臨床学会第36回大会 (パシフィコ横浜) 2017
- ⑪ Hasegawa, Y. & Kasai, M. Development of a Scale for Accepting Sexual Diversity among Japanese Youth, The 126<sup>th</sup> Annual Meeting of American Psychological Association (San Francisco)2018

3年間の実践・啓蒙および研究活動は、研究成果として書籍および研究論文として発表するだけでなく、教育現場での性の多様性に関する教員の理解と具体的な対応への取り組みに拡大している。これには、プロジェクト成果の一つで2019年6月に出版された「LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援」が教員および臨床心理士への指針として活用しやすい書籍として地域貢献につながっている。さらに、性的多様性のある児童生徒、学生への直接的支援を継続するとともにそこから得られたデータの蓄積、国内外の比較研究から、変容し続ける教育分野に対応するための新しい知見および対応、課題が見いだされた。

書籍名：LGBTQ+の児童・生徒・学生への支援：教育現場をセーフ・ゾーンにするために

(注) 氏名欄は適宜増減してください。

\* 字数の制限はありません。記述欄が不足する場合は、複数枚になっても構いませんので適宜行数を増やしてください。